



## 2011年度3学期及び2012年度初級漢字中期クラスの 授業報告：自律的な漢字学習を促すためのクラス 運営

著者	石田 麻実
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	29
ページ	173-188
発行年	2014-02
その他のタイトル	Report on-the 2011 and 2012 Kanji Class (K400-level) : management of a Kanji class for encouraging learner-centered study
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/121159">http://hdl.handle.net/2241/121159</a>

# 2011年度 3 学期及び2012年度初級漢字 中期クラスの授業報告

— 自律的な漢字学習を促すためのクラス運営 —

石田 麻実

## 要 旨

本稿では2011年度 3 学期から2012年度 3 学期の 4 学期にわたる筑波大学留学生センター初級漢字中期クラス「K400」の授業を報告する。目標は、①基本漢字350程度の総合的な運用力をつけること、②学習した漢字から漢字語彙を増やすこと、③自律的に学習していくことが必要であるという意識を促し、自力で学習していく方法を身につけることの 3 点である。K400は10回（1 回75分）で『Basic Kanji Book Vol. 2』（2009）の第23課から第35課までの13課（全148字）と多くの漢字を扱うクラスだった。そのため、予習を前提とし、主にクラスでは「読み」の練習、活動を中心に授業を進めた。クラスでは、単漢字を学習することで終わらないよう、漢字語彙を増やしていくことに重点を置いた。クラス内では「読み」の練習を通して、クラス外では様々な宿題を通して、総合的な運用力をつけることを考えた。各学期終了時にクラスアンケートを行った。

【キーワード】 漢字学習 初級中期学習者 読み 運用力 自律的な学習

## Report on-the 2011 and 2012 Kanji Class (K400-level) : management of a kanji class for encouraging learner-centered study

ISHIDA Mami

【Abstract】 This is a report on middle beginner kanji classes-K400 during 2011-2012. The goals of this course are follows: 1) to gain the ability to use a total of a basic 350 kanji, 2) vocabulary building using kanji which were learned in the class, 3) to gain learner-centered study skills by becoming conscious of the necessity of learner-centered study. K400 had 10 classes over the term (each class was 75 min) and we studied using “Basic Kanji Book Vol. 2” Lesson 23-35 (in total, 148 kanji were studied). Because of the large numbers of kanji studied, students were required to complete prior preparation, and class activities were centered on reading kanji. The class activities and homework were constructed for the purpose of attaining the goals of the course.

【Keywords】 kanji, middle-beginner level-learner, reading, using-ability, learner-centered study

## 1. はじめに

本稿では、2011年度3学期から2012年度3学期の4学期にわたる筑波大学留学生センター初級漢字中期クラス（以下、「K400」<sup>1</sup>とする）の報告をする。「K400」の授業の到達目標は、①基本漢字350程度の総合的な運用力をつけること、②学習した漢字から漢字語彙を増やすこと、③漢字学習で上の段階へいくためには自律的に学習していくことが必要性であるという意識を促し、教師主導ではなく、学習者が自力で学習していく方法を身につけることの3点である。

K400では13課分を扱う。初回はオリエンテーション、チェックテストを行い、10回目は最終試験となっているため、実質、約8回で、計3回のクイズを含めて13課を扱うこととなる。時間の制約もあり、クラスでは、「読み」か「書き」かのどちらかに重点を置く必要があると考えた。2011年3学期、2012年度のK400では「読みを」中心に授業を進めることにした。理由は以下の3点である。

- ①魏娜・加納（2012）では、筑波大学補講コースのニーズ調査において、筑波大学留学生センターの留学生は「読み」に最も必要性和困難さを感じていることが明らかになった。
- ②近年は紙に書くという行為より、パソコンを使い、タイピングをしてレポートなどを作成するほうが学習者の中でも多いのではないかと。読み方がわからなければ、漢字変換もできない。読み方を定着させることはタイピングから文章を作る際にも役に立つ。漢字の「書き」は自主的に何回も書かないと定着はしない。そのため、書き練習は主に宿題にした。
- ③研究や学習のために漢字クラスをとっている学習者が多い。ふりがながないと辞書で調べようがなく、指導教官から読むように言われた索引の語彙表を学生が持ってきたこともあった。学習者は、漢字を書く機会よりも読む機会のほうが多いのではないかと。また、漢字が読めることが読みものを読む力にもつながるのではないかと考えた。これらの理由から、「読み」練習、タスクを中心にK400では授業を進めることにした。

## 2. 2012年度までのK400の漢字クラスのレベル設定と学習者

### 2.1 K400のレベル設定

2012年度までは、筑波大学留学生センターでは、初級から上級までの日本語学習者を対象にした9つのレベルで様々な授業が行われていた。技能別「漢字」クラスでは、『Basic Kanji Book』（以下『BKB』）と『Intermediate Kanji Book』（以下『IMK』）を主教材としている。各レベルの学習内容は以下の通りである。

＜「漢字」クラスのレベル別学習内容＞

- ・ K200 (初級前期) : 『BKB vol. 1』 第1課～第11課 (全11課)
- ・ K300 (初級中期) : 『BKB vol. 1』 第12課～第22課 (全11課)
- K400 (初級後期) : 『BKB vol. 2』 第23課～第35課 (全13課)
- ・ K500 (中級初期) : 『BKB vol. 2』 第36課～第45課 (全11課)
- ・ K600 (中級初期) : 『IMK vol. 1』 第1課～第5課
- ・ K700 (中級初期) : 『IMK vol. 1』 第6課～第10課
- ・ K800 (中級初期) : 『IMK vol. 2』 第1課～第3課
- ・ K900 (上級) : 『IMK vol. 2』 第4課以降

K100が存在しないのは、筑波大学留学生センターの日本語レベル100では、ひらがな、カタカナの学習が主となるためである。学習者の日本語レベルと漢字レベルは同一なのが望ましいが、一致しないことも少なくない。

## 2.2 K400の学習者

### 2.2.1 学習者の背景

K400の学習者には、①筑波大学留学生センターの日本語補講コースの漢字クラスを経て進級してきた学習者と、②学期開始時のプレースメントのテストを受けて漢字レベル400と判定された学習者がいる。後者は、自国などで既に漢字の学習をしている学習者もいるが、漢字圏学習者の中には、開始時アンケートによれば、日本語の学習で漢字を学習したことがないという学習者もいた。そのため、読みが非常に弱い。またK400で設定されている日本語レベルは400だが、漢字圏学習者の中には、300レベルが多く、時に日本語レベル200の学習者がいたこともあった。反対に、非漢字圏学習者は日本語レベルが500、さらに600の学習者がいることもあった。そのため、クラス内での漢字以外での日本語レベルの差があったが、設定されている日本語400レベルの学習者を想定し授業をした。その理由は元々設定されているレベルであることと、受講者で日本語400レベルが最も多かったためである。漢字のレベルは『Basic Kanji Book vol. 1』が終わっている段階である。

### 2.2.2 2011年度3学期から2012年度3学期までの受講者について

2011年、2012年ともにK400はK400-1、K400-2の2クラス開講されている。2011年度、2012年度はK400の2クラスとも筆者が担当した。

各学期の受講生の人数と出身文化圏は、次のページの表1の通りである。漢字圏と非漢字圏学習者に分けたが、韓国人学習者については、漢字圏と非漢字圏との中間として真ん中に欄を設けた。

表1の学習者には登録のみで一度も出席していない学生も含まれるが、登録をキャンセルした学生は含まれていない。

表1 各学期の受講者登録者数と出身文化圏

学期	受講者数	漢字圏学習者	韓国人 学習者	非漢字圏学習者
2011年度 3学期	K400-1:18名 K400-2: 6名  計24名 (うち出席不良:5名)	7名 (中国7名)  *うち出席不良: 4名	2名  *出席不良 なし	15名(アメリカ3名、オーストラ リア、モンゴル、イラン、ベト ナム、イスラエル、カザフスタ ン、タジキスタン、ブラジル、 メキシコ、スペイン、シリア、 ラトビア各1名) *うち出席不良:1名
2012年度 1学期	K400-1:11名 K400-2:10名  計21名 (うち出席不良:2名)	9名(中国8名 台湾1名)  *うち出席不良: 1名	1名  *うち出席 不良:1名	11名(タジキスタン2名、イラン、 ミャンマー、インドネシア、ロ シア、ベラルーシ、ルーマニア、 スペイン、オーストラリア、ド イツ各1名) *出席不良なし
2012年度 2学期	K400-1: 6名 K400-2:26名  計32名 (うち出席不良:6名)	5名 (中国5名)  *うち出席不良: 4名	1名  *出席不良 なし	26名(ドイツ5名、アメリカ4名、 インドネシア3名、カンボジア2 名、カザフスタン2名、キルギス 2名、ロシア、チリ、スペイン、 フランス、シリア、ナイジェリ ア、ミャンマー各1名) *うち出席不良:2名
2012年度 3学期	K400-1: 7名 K400-2:11名  計18名 (うち出席不良:3名)	4名 (中国4名)  *うち出席不良: 1名	2名  *出席不良 なし	12名(チュニジア2名、ブラジル 2名、ペルー、ベネズエラ、ア メリカ、カザフスタン、ケニア、 ナイジェリア、インドネシア、 ラトビア各1名) *うち出席不良:2名

表1をみると、2クラス開講されても、受講者が片方に偏る傾向もみられる。特に2012年度2学期はK400-1が6名だったのに対し、K400-2は26名と4倍以上の差がみられた。また、最近の傾向として、漢字圏学習者の受講が減少傾向にあることが挙げられる。登録のみで授業には参加していない学生を引くと、さらに非漢字圏学習者の割合が高くなっている。特に2012年度2学期は受講者数が32名と多かったが、登録のみ(1回も出席していない)の学習者4名を引くと28名に対して漢字圏は1名しかいなかった。つまり、2012年度2学期に関しては、漢字圏学習者の受講者は全体の約3%とかなり低い割合となった。また全体を見ると、漢字圏学習者では出席不良で成績がD(不合格)となる割合も多い。

### 3. クラスの概要

クラスは、週 1 回75分、各学期10週（10回）で行われている。2011年、2012年ともにK400はK400-1、K400-2の 2 クラス開講されているがどちらも内容は同じである。2011年度、2012年度はK400の 2 クラスとも筆者が担当した。

K400は10回（1 回75分）で『Basic Kanji Book Vol. 2（第 5 版）』（2009）の第23課から第35課までの13課（全148字）と多くの漢字を扱うクラスである。しかし、初回はオリエンテーション、チェックテストを行い、10回目は最終試験となっているので、実質約 8 回で、クイズ（3 回）を含め13課を扱うこととなる。

初回には「漢字」全クラスでレベルチェックテストを行っている。K400のレベルチェックテストは、『Basic Kanji Book vol. 1』が終了したレベルかどうかを見るためのテストである。そこで、60%以下の学生には下のレベルを勧めるが、K400に残りたいという意味が強い場合はその限りではない。また、漢字レベル300の学生でもレベルチェックテストの結果が85%以上の学生は手続きをして受け入れた。初回から第23課を始め、最終日は最終試験を行っている。

次の表 2 は2012年度 3 学期のK400-1の予定表である。学生に配布する予定表の表は日本語、裏は英語にしてある。

表 2 2012年度 3 学期K400-1 スケジュール（表：日本語）

#### 予定 Course Schedule (10回)

	日にち	曜日	時間	教室	先生	クラスでやること [しゅくだい]
①	12月12日	水曜	4 限	研修室 H	石田	コース説明・チェックテスト・L23 練習
②	12月19日	水曜	4 限	研修室 H	石田	L24～25 練習
③	1 月 9 日	水曜	4 限	研修室 H	石田	L26～27 練習 [★宿題 1 1/9 (水)まで]
	1 月16日	水曜	休み		授業はありません (月曜のクラスがあります)	
④	1 月23日	水曜	4 限	研修室 H	石田	★クイズ 1 (L23～25)・L28 練習
⑤	1 月30日	水曜	4 限	研修室 H	石田	L29～30 練習
⑥	2 月 6 日	水曜	4 限	研修室 H	石田	L31～32 練習 [★宿題 2 2/6 (水)まで]
⑦	2 月13日	水曜	4 限	研修室 H	石田	★クイズ 2 (L26～30)・L33 練習
⑧	2 月20日	水曜	4 限	研修室 H	石田	L34～35 練習 [★宿題 3 2/25 (月)まで]
⑨	2 月27日	水曜	4 限	研修室 H	石田	★クイズ 3 (L31～35)・復習(ふくしゅう)
⑩	3 月 6 日	水曜	4 限	研修室 H	石田	★最終テスト (L23～L35)

### 3.1 授業方針

時間的制約からクラス内でK300までのように学習漢字を1字ずつ導入するのは難しく、予習を前提とした。予習を前提としたのは、自主的な学習を促すためでもある。主にクラス内では「読み」の練習、活動を中心に授業を進め、また、単漢字を学習することで終わらないよう、漢字語彙を増やしていくことに重点を置いた。

前ページの表2に示したK400のスケジュールから、初回とクイズの日以外は、1日2課進むというスピードが速いクラスであるので、自主的な学習ができないとクラスにはついてこれなくなってしまう。初回、まだクラスをとるかどうかわからない段階で、学習者にはK400はこれまでのK300までのように教師が漢字を1字ずつ導入はしないこと、スピードが速いこと、必ず予習をしてクラスに臨むことを伝え、やる気がある人だけ受講してほしいと伝える。これに奮起する学生もいる。また、K400は量が多く忙しく、漢字のクラスの中で最も大変なクラスだと言い、これを乗り越えれば後は楽になっていくということも伝える。

とにかく最初は半強制的だが、少しずつでも自力で学習をしていけるように、こちらからも授業で色々な漢字の学習方法を取り上げた。

また教科書には、答えを書かないよう指示した。漢字は繰り返し学習である。教科書に答えを書いてしまったら、練習は一度しかできないと伝え、ノートなどに読み練習の答えなどを書くようにさせた。

### 3.2 教材について

#### 1) 主教材

『Basic Kanji Book Vol.2 (第5版)』(2009)の第23課から第35課までを扱う。教科書のほかに筑波大学留学生センターで使用している教材、自作プリントを副教材として配布、使用する。

#### 2) 宿題(評価に含まれる)

従来から筑波大学で使用されているプリントであり、筆者が時事で合わない部分などは修正した。アンケートによれば、この宿題は学生に非常に好評である。宿題1(L23-25)、宿題2(L26-30)、宿題3(L31-L35)の計3回ある。内容は①短文に合う漢字語を選択肢から選び、その読みも書くという問題、②短文に合う漢字語を4つの選択肢から選び、その漢字を書き、ふりがなもつける問題、③文中の指定されたひらがなの部分を選択肢の漢字の中から選び、書く問題である。①②の問題は言葉の使い方がわかるようになったという意見が多かった。この宿題は評価の対象としている。課が終わった後に渡していたが、期日を設けていたため、早く欲しいという学生もいたので、その課が始まる時に渡すようにした。

<宿題の問題パターン①の例> (宿題 2 問題 1B より)

1. 次の文中に入ることばを後ろのア～カからえらんで[ ]に記号を書き、その読み方を( )にひらがなで書きなさい。そして、意味も書きなさい。		
	<読み方>	<意味>
1. きょうは[ ]が悪いので出かけません。	ア. 気温 ( )	_____
2. [ ]時代は楽しいものだ。	イ. 温度 ( )	_____
3. 日本のおふろは、おゆの[ ]が高い。	ウ. 温泉 ( )	_____
4. 休みになったら、[ ]でゆっくりしたい。	エ. 天気 ( )	_____
5. 日本の夏は、[ ]が高くて、むし暑い。	オ. 青春 ( )	_____

### 3. 3 評価について

出席率60%以上の学生が評価対象である。評価は、クイズ(全3回:L23~L25、L26~L30、L31~L35)の平均が30%、冊子にした宿題(全3回:L23~L25、L26~L30、L31~L35)の平均が20%、最終試験50%であり、それらの合計によって最終成績を決定する。評価はAが80%以上、Bが70%~79%、Cが60%~69%でここまでが合格、60%取れていない場合はD(不合格)となる。

## 4. 授業内容

授業は前に述べたように読み練習を中心に行った。筑波大学留学生センターのニーズ調査(2012)からも、読み方の必要性が感じられており、補講の受講者は学習、研究のために日本語で書かれた本を読む必要がある学生も少なくないことがわかった。また、専門書の索引にはふりがなが振ってないものがほとんどであり、漢字語彙を見て、正しく読めないと辞書でも調べられず、困っている学生も実際にいた。そのことから、授業では読みを中心に授業を進めることにした。

### 4. 1 授業の流れ

授業の前にその時間にやる課を予習していることが前提となる。教科書には答えを書かないように指示し、ノート、またはプリントがある場合はそちらで予習してくる。

1) 学習する課のトピック(ユニット1)でウォーミングアップする。ここではなるべくクラスを活性化することを心掛け、トピックに目を向けさせるようにした。第25課「結婚」など日本の文化などは興味を引くようだった。

その際、予習をしているかワークシートをチェック(または提出)。

2) ユニット2 2-1漢字の書き方:

課の全ての漢字には触れないが、書き方を間違いやすい漢字や、語彙の使い方などは補



足説明する。

3) 読み練習：筑波大学留学生センターの漢字副教材のパワーポイントを使用する。

①単語：漢字語彙を見せて、全員に一斉に読ませるが、学生一人（口が動いていない学生、読み方があやふやに見える学生）にもう一度読んでもらう。そのあと、読み方を出し確認。そこで、意味と表記を必ず確認してもらう。口頭で読めていても、清濁の区別、特殊拍などができていない場合が多いためである。

②文：単語と基本的に変わらないが、全員で読むことはしていない。一人ずつ読んでもらう。文レベルの読み練習では、習った漢字語彙がどのように文で使われているかも確認し、そこで、漢字語彙の使い方や注意すべきところを蛍光マーカーで注意を向ける。文の読み練習では、派生できるものは質問をしたりして漢字を読むだけではなく、その言葉を使って答えさせたり、質問させたりするようにしている。

③オプション練習（文）：『BKB vol. 2』にはない文を読む練習。やり方は①②と同じだが、学生のやる気は増すよう。経験を踏まえ、オプション練習は増やすようにした。

4) ペア読み練習（毎回ではなくクイズの前の回）

「ペア読み」も従来から行われていた活動である。「ペア読み」は、1枚の紙に課の新出漢字の音読み・訓読みで作られた短文が約15文ある。表（A）と裏（B）に同じ文が書かれているが、表（A）には偶数番号のみに、（B）には奇数番号のみに振り仮名が振ってある。ペアでA、B別々を持ち、Aが1文ずつ振り仮名のない文を読んでいき、Bはそれが正しいかをチェックしていく。それを交互にしていく活動である。こちらからの指示としては、「厳しい先生になってください」といい、すぐに答えを教えるのではなく、ヒントを出してみるようにと言っている。これは、学習者同士で助け合いながら達成していくタスクでクラスの雰囲気もよくなる。もっと取り入れたかったが、K400では時間がなくクイズの前の回に3課、または5課分を一つにした「ペア読み」をやるが多かった。

5) 読み物：

習った漢字を使って読み物を読めるということは学生にとって達成感もあり、運用力にも繋がる。そのため、できるだけ取り上げたかったが、全部の課は難しかった。できるだけ取り上げるようにしていたのは、第23課、第26課、第27課、第30課、第33課、第34課である。特に第30課「指の話」はどのクラスでも盛り上がった。

#### 4.2 K400での書きの扱い

書くことに関しては、近年は紙に書くという行為よりパソコンを使ってタイピングをしてレポートなどを書く場合のほうが学習者の中でも多いと思われる。そのため、書きは基本的に宿題にして、字形、書き練習の問題がきちんとできているかについて教師がチェックすることにした。これは2011年3学期からの試みだが、まず、筑波大学留学生センター

で使われている漢字教材のワークシート（マス目に漢字を書く部分のみ）を予習としてやってくるように言った。その課の授業後、『BKB vol. 2』の書き練習も基本的に宿題にした。

時間に余裕があるときは、書き練習の問題を何人かにホワイトボードに書いてもらい、終わってから全員に教科書を閉じて、ホワイトボードの漢字を読むという練習をした。その際、クラスメートが書いた漢字が正しかったかどうかについても全員で確認した。このようなやり方も良かったのだが、時間的に毎回は難しかった。また、全員の字形をチェックできるわけではないので、『BKB vol. 2』 2-3 書き練習 I、II、III を宿題として提出させることにした。これはプリントにし、言葉の使い方の練習として、その課の漢字語彙を使って文作成をさせる練習も宿題にした。この段階では、何となく書けているようでも、個々を見ると、書きにもミスが多いので、チェックした。そのあと、間違えないようになってきた学生もいたが、変な字形が化石化している場合はなかなか直らなかった。

文作成練習には、「おもしろい文を作ってください」という指示を出した。この指示は面倒だと思える学生もいたと思う。ただでさえ文作成が面倒だと思える学生少なくないはずである。書いてこない学生、辞書をそのまま写してくる学生、自分で文を考えた学生、面白い文を一生懸命に考えたと推測できるオリジナルティのある文を作ってくる学生と様々だったが、自分で考えた学生にはその漢字語彙の使い方の練習にはなったのではないかと思う。自ら使ってみないと、語はなかなか定着しない。ここから、使い方について共有したほうが良いと思われるものは授業で取り上げたりした。以下に学習者の作成した文例を挙げる。

#### <学習者の文例>

1. 毎日たくさんのさを洗うので疲れた。
2. 難問があつて、あの人は良心に反して間違いをしました（難問？）
3. 深夜、全部電気を消して寝ます。時々洗面所で水を流れる音が聞けます。
4. 生のテストは少ない点数でした。（？）

上記は一例だが、やはり使ってみると、2の「難問」の使い方がおかしかったり、文法の間違いも出る。ここで、フィードバックすることで、運用につながるのではないかと思う。フィードバックでは、まず、取り上げた例文がなぜおかしいのかクラスで各自考えさせた。クラスの中で何か意見が出たり、書いた本人が内省し意見を言ったりすることもあった。何も出ない場合は教師からヒントを出し、学習者を促すことはあったが、教師からすぐに答えを与えたり、説明したりするということはしなかった。教師側から全てを与えるという方針ではない。教師から全て答えがもらえるという考え方ではなく、まず自分で考えるということが運用力にもつながるのではないかと考えたためこのようにした。

書きの宿題はオプションにした。つまり、書き練習の宿題は評価には入れないということである。書きの宿題をやりたい学生、教師に書きをチェックしてほしいという学生だ

けプリントをもらい、出すという方針である。ある学生から書きの宿題が多すぎるとの苦情が出たことがあったが、その際は、評価に入らないから、チェックしてほしいなら出せばいいし、大丈夫なら出さなくても問題ないという態度をとった。これは「教師のために」という宿題にはしたくなかったからである。学生自身が自分で必要だと思うものを取捨選択し、選んだもののほうが学生も義務感を持たず、取り組めるのではないかと考えた。教師の関わり方も自律的な学習を促すためには必要だと思う。結局、苦情を言った学習者は毎回出していた。

K400では、3.2で述べた宿題（評価に含まれる）だけで十分だという学生はそれでよいという方針である。

#### 4.3 そのほかの活動

第33課「いろいろな表示」ではこの課に入る前に、毎学期、気になった表示を写真で撮ってくることを宿題としている。忘れてやってこないという学生もいるが、学生が撮ってきた写真をクラスで読んでみたり、推測してみたりする活動を表示の導入として使っている。現在は、携帯などで簡単に写真が撮れるので気軽にできるタスクである。ただの交通表示というより面白いと思われるような表示をとってくる学生が多い。2011年3学期には、学生Aは100枚も色々な表示を撮ってきた。Aの写真は、1枚だけ授業で扱ったが、Aは、ただ写真を撮ったというわけではなくその表示に興味を示し、説明できるところまでいっていた。クラス外の活動だが、漢字語彙は増えたのではないと思う。

「すごろく」は、4学期中2回しかできなかった。アンケートではこのような活動を求める学生もいたが、やはり、なかなか時間をとるのは難しかった。

復習 Review Lessonsは、急ぎ足になったが、授業で扱った。やはり漢字は繰り返し学習である。前に学習した漢字を忘れることは往々にしてあるので、授業で扱う際、間違ってもしばしば見受けられた。Review Lessons L23-25のように、語構成について整理しておくことは今後の造語力につながる。また、反対語を書く問題も2語の復習にもなり、語彙を増やし、定着させていくのに効率的である。Review Lessons L26-30は漢字語が「する動詞」や「ナ形容詞」になるかについての問題があり、このような知識はこれから語彙を増やしていくために必要である。中級以降、特に漢字圏学習者に、よく考えないで漢語名詞に「する」をつける傾向がある学生は少なくない。この時点で意識化しておくことと、知識を持っていることは必要であると考ええる。

#### 5. クイズと最終試験

1) クイズ：従来から筑波大学で使用されているクイズである。クイズ1 (L23-25)、クイズ2 (L26-30)、クイズ3 (L31-L35) の計3回ある。内容は①読みの問題、②短文から合う

漢字語を 4 つの選択肢から選び、その漢字を書き、ふりがなもつける問題、③文中の指定されたひらがなの部分を選択肢の漢字の中から選び、書く問題である。クイズ 1 が 60% 以下の学生には最初に注意するようにしている。それで伸びる学生もいるが、研究で忙しくなったりすると、特にクイズ 2 あたりの時期で差が出てくる。

2) 最終試験：範囲は第23課～第35課、学期で学習した課、全てである。①読み、②書き、③意味、④使い方を問う問題で構成されている。書きの比重は低くしてあり、読みの比重を高くしてある。最終試験までいった学生で、60%以下だった学生は 4 学期で多少の違いはあるが、8 割以上の学生の最終評価は A であった。このレベルでは、漢字はやればやっただけ結果が出るようだ。最終日に試験をするので、試験のフィードバックはできないが、ほとんどの学生からは試験の結果の問い合わせがくる。学生からは間違えたところをメモしたいとの申し出もあった。

## 6. 終了時アンケート

毎学期クラスアンケート（資料 1）を行った。実施時は最終日で、最終試験が早く終わった学生から順に行っている。回答は英語でもいいとした。

### 6. 1 K400に対するアンケート結果

下の表 3 に質問 1 から 7 までの結果を示す。各質問に対する回答を学期ごとに平均値で示した。各質問の 5 段階評価については資料 1 を参照されたい。2011年度 3 学期を I、2012 年度 1 学期を II、2 学期を III、3 学期を IV とし、4 学期間の平均を全体に記す。

表 3 学期末アンケートの結果（質問 1 ～ 7 までの 5 段階評価の回答の平均値）

\* ( ) の数字は回答者数を示す。

	I (19)	II (12)	III (25)	IV (10)	全体 (66)
質問 1 (授業は役に立ったか)	4.63	4.50	4.24	4.67	4.50
質問 2 (授業のスピード)	3.89	3.67	3.36	3.67	3.64
質問 3 (授業のレベル)	3.21	2.75	2.80	3.33	3.02
質問 4 (宿題は役に立ったか)	4.36	4.08	3.88	4.00	4.08
質問 5 (クイズ・試験の難易度)	3.21	2.75	2.84	2.78	2.89
質問 6 (予習はしたか)	3.31	3.33	3.28	3.33	3.31
質問 7 (復習はしたか)	3.31	3.50	3.28	3.33	3.35

質問 1 「授業は役に立ったか」という質問に対しては、平均値が 4.5 前後で「役に立った」という意見が多かったことがわかる。その理由として、「たくさんの漢字を勉強した

から」が目立ったが、「入学試験の準備のためにこの授業はとても役に立った」「家で勉強した漢字をもう一度練習するのはいいと思います」「色々な所で使える言葉がたくさんあるし、外で読める字があって気持ちがいいです」などの理由もあった。「どちらでもない」という回答もあったが、その中には、生活で漢字が必要ないからという理由もあった。

質問2「スピードはどうだったか」については、全体の平均値は3.64だが、ばらつきがみられた。5.「とても速かった」に丸をつけるものも目立った。これは、既習漢字があった学習者とそうでない学習者との差の影響が考えられる。

質問3「レベルはどうだったか」についても、ばらつきがあったが、これも質問2と同様の要因が考えられる。

質問4「宿題は役に立ったか」については平均値が約4と評価が高く、言葉の使い方、類義語の使い分けに役に立ったようである。

質問5「クイズ・試験はどうだったか(難易度について)」の平均値は2.89でやや簡単だったという傾向がみられる。宿題をベースにクイズは作ってあるので、そのように感じたのかもしれない。次のレベルに進むことを考えると、クイズの難易度については検討が必要かと思う。

質問6「予習をしたか」と、質問7「復習をしたか」についてはどちらも平均値が約3.3、つまり「ときどきした」ということになる。この回答が一番多かったが、「あまりやらなかった」と回答した学生、「いつもした」回答した学生もいた。「ときどきした」ということは、予習をしないで授業に臨んでいたことが半分はあったということであり、自律学習が促せたかという点では反省点が残る。

## 6.2 そのほかの漢字に関する質問のアンケート結果

質問8以降は、実際のクラスに関するアンケート以外のことを聞いている。その結果を記述する。

質問8の「先生から一字ずつ習いたいたいか」という問いに対しては、「はい」と答えた学習者がどの学期もほとんどであった。これまで教師から習ってきたため、なかなかその勉強のしかたから抜け出すのは難しいようだ。反対に「いいえ」という回答も少ないがあった。しかし、この質問文が学習者にわかりにくかったようで一概にこの回答が実際の学習者の意識を反映しているかについては疑問が残る。

質問9「漢字の授業でどんなことをやりたいか」については、「漢字の読み方の練習」「漢字の言葉の勉強」「漢字の言葉の使い方の勉強」の回答が多かった。質問9の回答を見ると、「漢字の書き方」を習いたいという回答は少なく、優先順位は低いようで、質問8と矛盾する。やはり、質問8については質問文の吟味が必要である。質問9からは、学習者は、漢字の読み方の練習、漢字語を増やし、使えるようになりたいという希望がうかがえる。

質問10「前より漢字ができるようになったか」について4学期中2名のみ「いいえ」を選んでしたが、そのほかは「はい」を選んでいた。「いいえ」を選んだ学習者は知っている漢字が増えなかったという理由があったので既習の漢字が多かったと思われる。

質問11「今、漢字が好きか」については、K400では漢字のシャワーを浴びようになってしまう学生もあり、特に非漢字圏学習者が漢字嫌いになるのは防ぎたかったので、この質問を設けた。結果は、「嫌い」と答える学生もいたが、ほとんどの学生が「とても好き」「好き」を選んでいった。この質問はコース開始時にもしているが、3段階にしてしまったため、比較できないが、嫌いから好きに変わった学生もいた。

質問12「漢字の勉強を続けるか」については、全員が「はい」と答えていた。「好きだから」「必要だから続けなければならない」と理由が記してあったものもいた。

終了時アンケートでは、自分がきついクラスで頑張れたことに満足感を得ている学習者も少なくなかった。

## 7. 今後の課題と改善点

以下の3点を目標にクラスを運営してきた。

- 1) 初級の漢字を基本漢字350程度の総合的な運用力をつけること。
- 2) 学習した漢字から漢字語彙を増やすこと。
- 3) 自律的に学習していくことが必要であるという意識を促し、自力で学習していく方法を身につけること。

クラス内では読み練習を中心に授業を行ってきた。漢字学習は自律学習でもあり、クラス内だけでなく、クラス外の学習が漢字の力が伸びるかどうかに関わっている。自律学習を促すために、自力で学習する方法を授業でもやってきたが、学生によって差が出た。自ら漢字学習用のウェブサイトを見つけて、教科書以外の言葉も増やそうとする学生もいた。自律的な学習を促せたかについては、反省点が残る。なかなかこれまでやってきた漢字の学習スタイルを10回で変えることは難しいとは思いますが、教師にすべて教えてもらうという意識は変えられたのではないかと思います。漢字語彙は増えたとは思いますが、それを運用できるまでに持っていけるようにできたかについては、反省が残る。ただ漢字語彙を覚えるだけでなく、色々な場面で運用できるような練習がもっと必要だと考える。

本報告は2012年度3学期までの報告である。2013年度から筑波大学留学生センターが2学期制になり1学期が15週（15回）になった。漢字クラスは扱う内容と量は変わらないため、様々な事に時間がかけられ、時間の制約の面は改善されるだろう。

## 注

1. 筑波大学留学生センター技能別クラスの一つである初級中期「漢字」のクラスの名

称である。2013年度からは大学が3学期制から2学期制に移行するのに伴い、日本語補講クラスの名称が変わり、新制度の下ではK300レベルに相当する。

## 参考文献

- 加納千恵子 (1997) 「初中級学習者に対する漢字指導の一試案—補講『漢字Ⅱ』クラスにおける授業報告—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第19号：103-108
- 加納千恵子 (2004) 「漢字2」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第19号：103-108
- 加納千恵子 (2004) 「漢字3」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第19号：117-123
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子 (2009) 『基本漢字500 BASIC KANJI BOOK VOL.1 第4版』凡人社
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子 (2009) 『基本漢字500 BASIC KANJI BOOK VOL.2 第5版』凡人社
- 魏娜・加納千恵子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第27号：222-344

資料 1 学期末アンケート (表)

がっきまつ  
**K400 学期末アンケート 2012.3**

\*成績に関係ありませんから、正直に書いてください。英語で書いてもいいです。

It isnot related to the evaluation and answer honestly, please. You can write answers in English.

1.1. 授業は役に立ち(useful)ましたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
とても	役に立った	どちらでもない	あまり	ぜんぜん

1.2 1.1の理由 (reason) を書いてください。

2. 授業のスピード(speed)はどうでしたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
とても速かった	速かった	ちょうどよかった	遅かった	とても遅かった

3. 授業のレベル(level)はどうでしたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
とても難しかった	難しかった	ちょうどよかった	やさしかった	とてもやさしかった

4. 宿題は役に立ち(useful)ましたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
とても	役に立った	どちらでもない	あまり	ぜんぜん

5. クイズや期末試験 (final test) はどうでしたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
とても難しかった	難しかった	ちょうどよかった	やさしかった	とてもやさしかった

6. 授業の前に予習(preview)しましたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
いつもした	よくした	ときどきした	あまりしなかった	ぜんぜんしなかった

7. 授業の後に復習(review)しましたか。一つ選んでください。

5	4	3	2	1
いつもした	よくした	ときどきした	あまりしなかった	ぜんぜんしなかった



資料1 学期末アンケート(裏)

8.1. K400 では、漢字の読み方・書き方の練習(practice)をしましたが、先生から漢字を一字ずつを習いたいですか。

- a) はい      b) いいえ      c) どちらでもない

8.2 漢字のクラスでどんなことをしたいですか。したいことに○を書いてください。write ○up to 3.

- ( ) ①漢字の読み方を習いたい。      ( ) ②漢字の書き方を習いたい。  
( ) ③漢字の読み方を練習したい。      ( ) ④漢字の書き方を練習したい。  
( ) ⑤漢字のことばを勉強したい。      ( ) ⑥漢字のことばの使い方を勉強したい。  
( ) ⑦漢字の活動(Activity)をしたい。  
( ) ⑧そのほか others [ ]←anything is OK.

9. コースのはじめより、漢字ができるようになりましたか。

a)はい→どんなところができるところになりましたか。

b)いいえ→どうしてできるようになりませんでしたか。

10.1. 今、漢字が好きですか。一つ選んでください。

- |       |    |         |     |     |
|-------|----|---------|-----|-----|
| 5     | 4  | 3       | 2   | 1   |
| とても好き | 好き | どちらでもない | あまり | きらい |

10.2. どうしてですか

11. これからも漢字の勉強を続けます(continue)か。

- a) はい      b) いいえ      c) まだわからない

★何かコメントがあったらお願いします。(Please write freely. Any comments welcome!)

\*アンケートにご協力 どうもありがとうございました。Thank you very much your cooperation.